

幼児の教育

第五十卷

第三號

日本幼稚園協會



Kazuo

3

幼稚園のあり方と全貌の解明書

幼稚園制度研究会編

加除式 幼稚園関係法令通達便覧

A 5 判 270頁

幼稚園一覽

A 5 判 160頁

- 幼稚園教員養成所一覽
- 幼稚園のつくり方
- 幼稚園に備えなければならないもの
- 幼稚園で認可や届け出を必要とする事項とその届け方

上製美麗二冊箱入 定價 500圓 円35圓

☆推薦のことば

文部省初等中等教育局初等教育課長 大島文義

○幼児教育の重要性が認められて、幼稚園関係者各位には、園の運営や教員の身分資格等についての法令に關する深い知識と理解とが、缺くことの出来ないものとなつたのです。このときに本書が刊行されたことは、まことに時宜に適したものであり、保育界に裨益することがまことに大きいと思われ、本書の刊行を賛同いたし、その活用を期待す。

發行所 東京都千代田區 株式 フレーベル館 振替口座
 神田神保町2の4 會社 東京 19640

文
部
省
推
奨

全
國
保
育
連
合
會
推
奨

フレーベル式

恩物

(第1恩物より第13恩物まで) 定價2450圓

七箱入一組 円100圓

フレーベル曰く、『兒童は幼年期となれば、其内部的本質を、色々の目的と手段とに隨つて、多方面に分割して働かせ、自分の努力によつて其本質を永久的に外部に表現せんと力むるものであります。而して兒童は又外界によつて内界を現わし、かくて内外兩界を統一せしめんとするものであります。人の教育は此の時期から始まる』と(フレーベル『人の教育』より)。恩物は兒童の内界を外界に發表する唯一の武器であつて、而も論理的方法であります。即ち恩物に於ては立體より始まつて面、線、點に移り製作方面に於ては、逆に點に始まつて順次線、面、立體に移つています。兒童はかく各ダイメンションを有する物體によつて繁簡自由により自己を外界に表わし、かくて内外兩界を統合統一するものであります。

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 第一恩物 六球 | 第六恩物 積木 | 第十一恩物 環 |
| 第二恩物 三體 | 第七恩物 色板 | 第十二恩物 紐 |
| 第三恩物 積木 | 第八恩物 連板 | 第十三恩物 粒 |
| 第四恩物 積木 | 第九恩物 組板 | |
| 第五恩物 積木 | 第十恩物 箸 | |

發行所 東京都千代田區 株式 フレーベル館保育用品株式會社 振替口座
 神田神保町2の4 東京 38171

第五十卷 幼兒の教育 第三號

目次

幼稚園の三月	倉橋惣三	(2)
幼兒における描畫の發達	山下俊郎	(6)
よき幼稚園(三)	及川ふみ	(10)
幼稚園の歌	作詞 倉小松 作曲 小松	惣三 耕惣 (14)
幼稚園のP・T・A	多田鐵雄	(16)
カリキュラムはこうしてつくられる(一)	鈴木信政	(20)
アメリカ童話から(九)	松原至大	(35)
(隨筆) 幼兒の健康保育(九)	平井信義	(40)
幼稚園教員臨時養成所入學募集要項	御茶の水女子大學	(46)
會から		(48)

(表紙……脇田和)



幼稚園の三月

幼児にはこゝろの新芽の伸びてゆく月
先生には教師としての新年輪のふえてゆく月

倉 橋 惣 三

一

三月は、子供達が幼稚園を了えてゆく月である。卒業という字は内容的に當らない。修了というも堅すぎる。修了と書いては形式すぎる。幼稚園保育の本質に即させて、何んという言葉がびつたりするだろう。毎年、そんなことを考えさせられる三月である。

いづれにしても、この子供達は、今年ぎりで幼稚園を出てゆく、來月からはもう、今までのように毎月會えないのだと思えば、さすがにさびしい氣がする。しかし、子供達は皆、小學校へ進んでゆくのである。登つてゆくのである。假りにも、さびしく見送るような顔を見せてはならない。進め、登れ、子供達よ。幼稚園なんか振りかえつて見なくていい。わたしに別れを惜んでくれたりしないでいい。あなた達の目は前方を見つめる。あなた達の話題は明日である。三月は、あ

なた達にとつて、最も喜ばしい月である。入園のときも喜びであつたが、それ以上の喜びに溢れかえつているのが、幼稚園の此の三月である。

進めよ、登れよ。だが見送るわたしには、過去を偲ぶさびしさがある。あなた達の後の姿は勇ましいが、それを見送るわたしとしては、あなたに盡し足りなかつた過去の反省が、胸をひきしめずにはない。わたしは、あなた達のために、いつも一ぱいによい先生であつたらうか。

保育効果の測定ということが、この頃しきりにいわれている。そうして、その測定の標準というものが数々擧げられる。保育には勿論めあてがなくてはならぬ。なるようにならせるだけのことではない。従つてまた、保育しはなしではないものではない。そこに、保育効果のエバリュエーションも、厳しい問題も當然あるべきことだ。しかし、保育という、子供と共につづける生きた生活の業績というものは、必ずしも

簡単に測り定められるものではない。

第一に、子供の今在る姿が、保育の力だけによるものかどうかも明らかでない。但し、子供に望ましくない姿があればその責任は保育が自らの責任として心に悲しみもし、わびもしなければならぬことである。そして、それが幼稚園の三月の心を暗くさせることの少くないのも、年々の事實である。しかもまた、子供の今の姿のすばらしさが、必ずしも、わたしの手柄でないことも、一層大きな事實であろう。世間と親達は、それについて先生に禮をいうであろうが、子供としては、自分でこうなつたのだというかも知れない。自分でというのも言い過ぎとしても、幼稚園の力というのは、一層大きい言い過ぎかも知れない。幼稚園保育の力は素より大きい。しかし、子供の發達の素因は更に廣い。その中でも、子供自らの力は最も大きい。それらの複雑な結果をひつくるめて、何年間の保育効果といつて悪いということもないかも知れないけれども、あなた達を送り出す今年のわたしの心もちとしては、假りに、その保育効果を、わたしの力として考えるような簡単な譯にはいかない。わたしは、あなた達のために喜ぶだけである。祝うだけである。その喜びの中に、少しは、あなた達のために盡した苦心を思い浮べ、その祝いのの中に、少しは、あなたの感謝に甘えさせて貰うことによつて、幼稚園の三月の心がつましい自己満足感で明るくさせられることはあるが。

第二に、子供は一人々々である。保育効果の標準の一般性

も、くわしくは實に即し難いこともある。その標準が最低要求である限り、どの子にも希望されることとしてよいが、保育効果としての評價を均等化することは自然であるまい。完全無缺ということは、教育における希望であつて、必ずしも實現の期待とはなり得ないであろう。その子はその子としての發達が實現せられ得ることで、表に書き上げる完さは、望ましいことではあるが、望むべきことでも、望み得ることでもなからう。その子をその子として育て上げることこそ、その子の保育効果であるし、その意味で、その子を離れた保育効果というのは、そうらくらくと、言いかえれば、そうかるがろしく考えられないことでもあろう。文學的表現を借りれば、幼稚園は、もと／＼同一種の苗圃ではない。してみれば、幼稚園の三月には、いろ／＼さまざまの花、少くも花の蕾が、そのとり／＼の美しさや、美しさの期待において鑑賞される月である。決して全國一色に、園丁の丹精でも誇りでもないのである。保育効果は、どの子にも與えられなくてはならぬ。しかし、そのエバリュエーションは、決して一つなみではない筈である。もう一度繰りかえしていろ。幼稚園の三月は、花の色とり／＼の月である。

第三に、幼稚園保育効果のエバリュエーションは、完成評價ではなくて、期待評價である。一體が、幼稚園保育は、常に大いなる未完成を尊重していることである。その中で幼稚園保育としてエバリュエーションは考えられていゝとしてもそれは段階性のものであるよりは、伸長性のものである。區

ぎられた一段々ではなくて、どこまでも、いつとなく伸びつゞけて行く新芽である。芽ぐみの高さは、いまの高さであるよりも、伸長を含み伸長につゞく高さである。これを未完價值といつて感じが伴わないならば、伸びゆくことの生長評價といつてもいい。この場合、その數學的評價は單純なる科學的評價の如く簡單には行われないが、もと／＼教育は教育者の主觀を全く離れてはあり得ないことで、そこにこそ教育的評價の本質があるのでもある。少くも幼稚園の三月は、出で、ゆく幼児を、今更に抱きしめてやりたいような氣のする先生達にとつては、保育方法の時々の途中における心理的尺度評價の必要とはまた別な芽の愛での教育評價の月である。

第四に、前に假りに名づけた生長評價という語をゆるされるならば、それは、今日を結論としないで、伸長を明日に待つ評價である。そして、幼稚園の三月の物さびしさは、その明日の教育効果がわたしの手から離れてゆくことにある。子供達が、晴々して進み學ぶ小學校を信頼しないではない。しかし、それはもう、自分が味える教育の楽しみではない。子供達を人手に渡すのを悲しむのではないが、今まで進めて来た生長評價を、人手に委ねることは、正直のところ物足りない。子供達のために悲しむのでは決してないが、自分のために残り惜しいのである。こないだ來日した第二次米國教育使節團は、幼稚園が小學校のパートとして置かれることを勧告して歸つた、幼稚園の三月の心としては、小學校が幼稚園のパートとして置かれたらと思う。幹に根が屬するというよりも

根に幹がつくというのが、より自然であるように。又、使節團はすべての幼稚園の教師は、小學校を教えられるものでなければならぬと、言いおいて行つたが、教えられるものなどというだけのことでなく、わたしは、わたしのこの子供達と共に、小學校へいつしよについて行きたい。そして、そこで、わたしの幼稚園保育の生長評價を、もう一つものにした。幼稚園の三月のさびしさは、それができないことの、いわば、ねざめの悪さである。それを中學まで、高等學校までと、後について歩いては、ことによつては、子供達に迷惑になることもあるかもしれない。しかし、自分が幼稚園で保育した子供を、大學に迎えた經驗をもつものには、生成評價の楽しみを、そこまで續け得るのである。こうした楽しい經驗を實際にもち得る教師は、そうざらにあるまいが、少くも幼稚園の三月は、教師に、そこまでの楽しいイマジネーションを樂しませるのでなければならぬ。——ふと思う。幼稚園の三月に落第のないことは、誠に、ほんとうのことである。

一一

幼稚園の三月、子供には一人も落第はないが、先生には……何年間の保育の勞苦に對して、はたから彼これ批評しては濟まないが、先生自身としては、いろ／＼と自ら省み、自ら悔めることも、多々であらう。そうして、自ら落第點をつける人はないとしても、保育としての評價は決して同じであるまい。自己評價だから、甘くも辛くも勝手であるけれど

も、ふだんとちがつて、自分に對して特に辛からざるを得ないのが、幼稚園の三月でもある。——保育のエバリュエーションは子供に於いての測定だけの問題ではない。

子供への保育効果は、自然のスロープの上向の日々であるとして、先生の保育者としての評價は、自らのはつきりした意識によるものであるから、反省の機會にあう毎に自分で自分を採點する。その採點頻度（如何に度々自己採點を行うか）は、人により機會により同一であるまいけれども、幼稚園の三月こそは、誰れでも共通のその機會であらう。他から強いられる機會ではなくて、出てゆく子供の一人々々の後ろ姿を見送りながら、自ら振りかえられる自然の機會である。日々の保育は、反省のいとまもなく忙しいが、保育の一とくぎりである三月には、とにかく、子供を送り出した後の、しんとしたような心の劃線が出来る。一年毎に經驗するその劃線は、いわば、幼稚園の先生の年輪ともいえるものである。樹木は年輪によつて成長してゆく、幼稚園の先生も保育經驗の年輪によつて成長するといつてよくはあるまいか。先生の反省の月、幼稚園の三月は、先生の保育者としての年輪が加わつてゆく月である。伸びるといふよりも、多くなつてゆく月である。多くなるばかりでなく堅固に充實してゆく月である。だが、反省しない三月は、幾度重ねても年輪にならな。

幼稚園の三月が、新しい子供の月であることはいうまでもない。と同時にまた、新しい先生の月である。新しい子供は

入れかわる。新しい先生は入れかわりではない、充實である。新しく充實することによつて、きのうのまゝの、すなわち、舊體依然、何んのかわりもない先生でなくなるのである。

先生が新しくなるとは、何も新入園児の顔がかわるようにならなければならない。保育の仕方が新しく變るといふのも、必ずしもないかも知れない。そんな外にあらわれる新しさとも限らない。その人の保育についての感じ方が新しくなるのである。幼稚園についての考え方が新しくなるのである。子供についての観方が新しくなるのである。

その新しくなるといふのも、必ずしも變化ということには限らない。同じ感じ方でも考え方でも、觀方でも、その深さや濃やかさや、わけても、その鮮度が変わるのである。新しいとは生きていることである。鈍つていないこと、だれていないこと、氣のぬけていないことである。そうして、それは反省によつてのみ、自己を新しくいのちづけ得られるのである。教育者の新年輪は教育者としての新鮮度の更新である。





幼児における描畫の發達

東京家政大學教授 山下俊郎

一

幼児教育において、幼児に與えらるべき楽しい經驗としての繪畫の問題を考ふるに當つて、一番大事な問題は幼児の繪をよく理解することである。幼児の繪の見方については、以前に本誌上で久保貞次郎氏が數回述べられたことがある。

幼児の繪の見方について一番大切なことは、大人から見た大人流の勝手な解釋をすてて、繪を描くことそれ自體が幼児の生活のそのままな表現であつて、その繪にあらわされている幼児の生活を充分に理解するということである。ところで幼児が思い切り充分に自分のすべての生活をぶちまけて、心から繪畫的表現を樂しむことが出来るためには、幼児にとつて一番やさしい表現の道具と材料とが與えられることが大切である。一番やさしい道具と材料というのは、言葉をかえ

て言えば、幼児が充分にこなし得る道具と材料をいうことである。充分にこなし得るためには、道具と材料とをこなし得るだけの運動の力の發達がその前提とされる。充分にこなし得る道具と材料とでなければ、幼児が思う存分に繪をかくことが出来ないからである。

幼児の時期は運動の發達から言つて、大まかな大筋肉の運動の發達する時期である。一體に幼児の運動發達においては、まず大きい運動、すなわち大筋肉をつかうような、そして肩や腕や手首などをつかう運動が發達してから、そののちに手先きこまかな巧みさやこなしが發達するのが、原則である。だから、大まかな大筋肉の運動の發達する時期には、手先きのこまかな巧みさやこなしはまだ發達しないのである。

このことから考えると、幼児が繪を描くときにこなし得る道具と材料がおのずから制限されてくる。古く使われていた

色鉛筆や、細いクレヨンといったようなものは、それをあつかうのに、相當の程度の手先きの巧みさを必要とする。だから幼児にはあまり向かない。また、あまり小さい紙にコチャ／＼と描くということもなかなか手先きの巧みさを要するこのようなことを考えると、幼児がらくに扱えてしかもはつきりと思う存分に描けるという點において、鉛筆やクレヨンや小さい紙は、幼児に充分にこなし得る材料や道具であるとはいえない。このような考え方から、大きい紙を畫架にはりつけて、ポスターカラーのような繪具を、大きいブラシ（繪具筆）思い切りにつけて描かせるというやり方が幼児に一番適しているということになるのである。保育要領に、大きい紙に、ブラシで思い切り描かせるということが提唱してあるのはこのような根據にもとづくものである。

ところで、このような道具と材料を幼児に與えたとき、幼児がその年齢に應じ、發達に應じて、どのようなこなし方をするといいことについては、わたし達はまだ充分な研究をわたくし達の日本の幼児について試みていない。そこでわたくしはアメリカの幼児について長年かかつて研究されたゲゼルの研究のうち、いまわたくし達が問題としてゐるような點についての資料をこの稿で紹介して見たいと思う。

一

ゲゼルの幼児の描畫の發達の觀察は一才半からはじまつて二才、二才半、三才、四才、五才、六才というふうに、觀察

されている。年齢を追つて年齢段階ごとにその結果を紹介して見よう。

一歳半

- 1 腕全體をつかつて描く
- 2 一枚目の紙にほんの數本しか描かない、弧の形に線をひくことが多い
- 3 一方の手からもう一方の手へとブラシを持ちかえる
- 4 たつた一色だけで満足する

二歳

- 1 一才半のころにくらべて手首の運動がよく出来る
- 2 ブラシを持つ手を持ちかえることをしなくなる（ただし兩手に一本ずつブラシを持つて描くことはよくある）
- 3 色におかまいなしに、紙に色をこすりつける。數色をまことに威勢よく塗りかさねて、にがらせてしまう。
- 4 一色だけで描くときに、大分いろいろの線をかくようになる。
- 5 出来あがつた繪よりもそれを描いてゐる過程が子どもにとつて大切である。
- 6 描いていても氣が散りやすい、自分の手の運動を氣をつけて見ていないことがある。
- 7 ほかの子どもと一緒に紙に描くことをよろこぶ。

二歳半

- 1 垂直の線や水平の線、點や圓形などというふうにいろいろの線を描いて見る。

2 はじめはきちんと描いているが、すぐに變な形になつてしまうことが多い。

3 よく脱線することがある。机に描いたり、晝架や床や自分の手やほかの子どもに描いたりする。

4 同じような繪を何枚も何枚も描くことがある。

三歳

1 いろいろの線を描くようになり、手の運動もリズムカ
ルになる。

2 模様を描きはじめる。

3 紙全體を一色にぬりつぶしたり、いろんないろをあちこちと一かたまりずつ塗つて紙全體をぬりつぶすことが多い。

4 描いてしまつたあとで「これ〇〇よ」といつて豫告することもある。しかし大人が見てもそれが何かほとんどわからないことが多い。

5 年上の上手な子どもの描くのを見たり、ほかに上手な子どもの描くのを見ていて、それに刺戟されて描くことがある。

6 出来上つた繪に喜びと誇りを持つている、「ぼくの描いたのを見て御覽」とよくいう。

7 一生懸命になつて、きちんと描くようになる。

8 ほかの子どもと同じ紙に描くことをいやがるようになる。

四歳

1 大人と同じ持ち方でブラシを持つ。

2 長い時間のあいだ一つの繪に没頭してきちんと描くようになる。

3 描いている間に次第にいろんな想像を活潑にめぐらしている。

4 描きながら繪の説明をするのでおしやべりが多くなる。

5 いろんな模様や出たらめな字を描くようになる。

6 あまり細かくは描かないがいろんな品物を描くようになる。

7 大小や空間的關係にはあまり頓著しない——子どもにとつて一番大切な部分が一番大きく描かれる。

8 文字や人間などが横向きや逆さに描かれる。

9 自分で描いた輪廓のなかに色を塗ることを喜ぶ、大人が見るともとの形が何か分らなくなるような時でもおかまいなしにぬりつぶすことが多い。

10 自分の繪の自己批判をはじめる。

11 描いた繪は子どもにとつて個人的な値うちがある——子どもはそれを家に持つて歸りたがるのである。

五歳

1 あまりこまかではないが、一つずつのものの輪廓畫をよく描く。

2 家の兩側に表口や裏口のドアを描く、そのドアの上と下にちやんとその刻み目を描く。

- 3 自分の描いた繪が「變だ」ということを認識する。
- 4 どつちかの手を使うという利き手が大體きまる。
- 6歳
- 1 鉛筆の持ち方はまだブキツチョである。
- 2 繪を描いたり、押し繪をしたり、色を塗つたりすることを五才児よりもすつとよるこぶ。しかし、お手本に似ていなくてもちつともかまわなないでいる。
- 3 輪廓の中に色を塗ることに夢中になつて、ながいことやつてゐる。
- 4 色をクレヨンで塗るときは、その持ち方はまだブキツチョである。
- 5 塗るときに、身體をあちこちと動かしたり、頭をかしかけたり、いろいろの姿勢をしている。立つたり、机にもたれたり、頭を手の上にもたせたりする。

三

ゲゼルの行つたような觀察は、幼稚園でも保育所でも、熱心に氣をつけていれば、保育者の誰でもが出来ることである。それを丹念に記録すること、ほかの心理的發達との關係を考への中に入れながら、年齢段階にしたがつてきちんと整理することが大切である。このようにして得られた發達段階にしたがつてわたくし達は、幼児の繪畫をその發達の基本的な線に沿つて、順調にそしてすこやかにのびして行くようにしたいと思う。何よりも大切なことは、わたくし達が、

わたくし達の眼の前にいる幼児を、わたくし達の眼で觀察することである。

(以上の中でゲゼルの研究の紹介の部分で、四才までの分は Infant and child in the culture of today, 1943. 五才六才の分は The child from five to ten, 1946. によつた)

新刊紹介

オハイオ州立大學附屬學校編
周 郷 博譯

「子供たちはどの

ように發達するか」

東京都中央区銀座一の五 新社團法人新教育協會發行
定價一七〇圓 一六〇頁

推薦

子供を知るための寶典——東京大學教授 海後宗臣
子供を育てるのには、成長する子供がどのような身心の特質を示すかをよく理解していなければならぬ。この書はアメリカの子供研究の結論を集成して骨組みとし、それにオハイオ大學の附屬の子供の研究を肉付けしてできたものである。子供が三才から十八才までの間にどうなるのか、實にわかりやすくまとめたのである。この書を日本の父母や教師が身近かにもつていて必要なところを開くと子供の導き方がすぐわかる。私はこの書を「子供を知るための簡易な寶典」として推薦する。



よき幼稚園 (三)

お茶の水女子大學
附屬幼稚園主事

及川ふみ

前號、幼児の生活の躰の點を考へて見た。この躰が幼児の生活に自然に、とけこまれて、はいる様になるのには、幼児が先生を信頼して、自分をほんとに可愛がついてくれる人である、即ち幼児のすきな先生であるという事重が要な點である。又一つには、その仲間である友達が、皆仲よしであるという點である。先生がこわかたり、お友達の間が悪かつたりして、周囲の人たちに好感がもてない様であつては、その躰にどんなに努力しても、ほんの表面的なもので、或は時によつて幼児の行動が變る事になるかもしれない。ほんとに身についたものでなく、人の見てゐる時にだけとか、或は自分に都合のよい時にだけということにもなるおそれがある。幼児が先生や、お友達に對する信頼感が充分にもてこそ、幼児に責任をもたすということも望まれるのである。幼児が自身で責任を感じて行動して始めてよい躰がみにつくのである。

躰は幼児の幼稚園生活を楽しく、集團生活に秩序をもたせる爲でもあるが、同時に數多くの躰を約束することは幼児の

重荷になることも考へて、實行出来る範圍のものに止めておくことである。入園當初のものには、いろいろ約束したい事柄が澤山あるのではあるがこの點を考へて徐々にすることである。設備その他の點でもこれを習慣づけるのに便利な様にするのも一つの方法である。

躰についてよき機會をとらえる事も考へたい。幼児の個人的身邊の變化、幼稚園の行事季節等種々の機會を捉へる、よき時期をみのがさない事である。次に幼稚園のカリキュラムに移つて見ることにする。

カリキュラム

昭和廿五年は認定講習と共に、幼稚園のカリキュラム作成に大努力をばらわれた時でもあつた。

このカリキュラムの作成の後につづいてなされなくてはならないのがカリキュラムの實際の活用後の反省である。即ち現在はカリキュラムの反省期に入つてゐるのであらうと思われる。各自の幼稚園で作成されてゐるカリキュラムが、は

たして如何に實際に役立つていかという點である。即ちカリキニラムが圖表の爲のカリキニラムでなくて、實際毎日の保育室で活動しているカリキニラムであつたかどうかと云うことを考へて見なければならぬ。

幼児の生活の觀察が充分に出來た上で作成せられたカリキニラムであつたかどうか。

幼児の健康、幼児の情緒的發達、幼児の社會性、幼児の知的生活、これ等の諸點について、成長發達の基調とする一般調査保育要領その他を通覧することは勿論であるが、他方においては實際的に各園の現在の幼児についての調査・觀察が主體となつてカリキニラムの作成がなされていたかどうかという點について、

家庭環境によつて

家族關係・保護者の職業・家の周圍の環境・入園前の病歴等の參考資料

などによつて幼児の入園前の家庭生活の實情をよく知つておくこと。

幼児の家の周圍及び幼稚園の周圍等の環境について。

幼児が毎日通園する途中の環境、例へば商家の多い場所であるとか、住宅地であるとか、交通のはげしい大都市であるとか、或は靜かな小都市であるとか、様々の環境によつて、幼児たちの經驗も異つているのであるから、この點カリキニラムの活用に直接に大きな影響をもつていゝる。

幼稚園の環境

幼児の數、及びその年齢、教員の數、

施設については、保育室及びその他の諸室、運動場の廣さ、遊具その他の設備、備品等などすべてが幼児の經驗の材料であるので、カリキニラムの内容と直接の結びつきがあるか、どうかということになつて來るのである。

單元

次に單元についての反省をこゝろみよう。單元が、幼児にとつて興味が多かつたか、どうかということは、その單元の評價について第一にとりあげてよい問題である。幼児が興味をもてない。或は興味の少い單元は、これをとりあげる價値のないものである。尙これについて一組或は個々の幼児について考へなければならぬことであつて、一組のうちごく少數のものに興味のあるものであつてはならないことである。

幼児の興味は、幼児自身の經驗したことによつて、その基礎づけられることが多い。つまり單元を有効に活用出来るのは、幼児の經驗によつてはじめられることである。

家庭、幼稚園、通園の途中等においての幼児がみぢかに經驗した事から撰ばれることである。このことから單元が計畫的なある大さをもつものの場合と、無計畫的な小さな單元である場合もあるのである。

即ち幼児とお友達、先生などで、話し合つて單元をきめ、

それぞれが計畫的に活動に入る、比較的に必要な單元を連続してなされる場合もあるが（普通一般にはこの種が多いのであろうが）又一方偶發的に小さな單元をとりあげて、幼児の興味を充分に見つけ出すこともある。例へば一人の幼児が登園の途中で出會つた犬について興味深く話し出した場合などに、教師はすばやくこのよき機會をとらえて、單元にするのは最もよきものが出来るのである。大抵の場合これ等の單元は比較的小さなものであることもあるが、又時としてはこれがきつかけとなつて大きな單元にまで發展する場合もある。こうして見出された單元は、この幼児たちにとつて最もよい單元といふべきである。よき教師はこうして幼児たちの中からよき單元を發見する人であらうと思われる。

單元が幼児たちの身心の成長發達に如何に役立つたか。興味は單元の良否を決める一つの觀點であるが、その單元によつて遊んでいるうちに、幼児たちが何を得たかについて考えてみなければならぬ。

お店遊びをした時に、友達と一緒に仲よく共同作業をしたかどうか、賣り買い遊びの時に、數についての理解が出来たかどうか、お店の品物を整理整頓が出来た幼児たちの情緒的の生活がうるをつたかどうか。

など計畫された單元の一つ一つについての、その評價について考へなければならぬ。尙この時に教師の考えねばならないことは、單に幼児のもつている經驗の整理という點にとどめないうで、これをもとにして個々の幼児が知的方面でも、

さらに進んで探求が出来るように誘導することである。又幼兒の社會性について、さらにその分野の擴まる様にと誘導することも合せて計畫すべき點ではなからうかなどの諸點である。

單元の數が、多いか、少いか。

單元をカリキュラムの表にあらわすときには、その數が多ければ賑かで一見よく出来たカリキュラムの様にも見えるがそのの實施の點を考へると、はたしてこれだけの單元が充分に消化されているだろうかと思ふと同時に、幼児や教師の負擔が多すぎはしないかと、考えられる。今多くとられている單元の數、單元の大きさについて今一度反省をして見る時ではなからうか。さきに單元のところであげた偶發的小單元も入れられる點もあるからそこに餘裕をもつた方がよいと思われる。

單元以外の保育内容の經驗

幼兒に經驗させる保育内容は、保育要領にも大要示されている。幼稚園のカリキュラムは單元及びそれに含まれていない經驗内容との兩者が適當に配列されるべきである。年長の幼兒にあつては、單元がより多くとり上りあげられることであらうし、又幼稚園の地理的環境によつても都會地と農村地域とでは幼兒の文化的の發達の點も異つているので、單元の數などでも自然に差があることである。即ち年齢により、環境によつて、それぞれに、即應した途がえらばれるのである。

幼児が個々に経験される様々の保育内容が、數種入りまじつて、自然に作りなされた單元がもつともよき單元と云えるので、單元の爲の單元、カリキュラムの爲の單元ということにながされないで、どこまでも、「幼児から出發して幼児に歸る」單元であるべきである。單元の外にある個々の保育内容についても、幼児への指導は重要なものであつて、個々の保育内容が十分に指導されていることによつて、又單元の内容充實と云うことにもなる。即ち兩者は二つであつて一つである。車の兩輪のわけである。お互に相たすけてはじめてよきカリキュラムが作られるのである。

「よき幼稚園」のみだしのもとに三回にわたつて愚見をのべたのであるが、よき幼稚園、の意味の充分に表現が出来ないところが多かつたことと思われるが要するに、

幼児が幼稚園へ喜んで行く

幼稚園では幼児たちが皆樂しそである

先づこの二點はよき幼稚園の要點であろう。幼児が幼稚園へよろこんでいく。幼稚園では幼児たちが皆樂しそである。この二つのことが、充分に幼稚園として與へられているであろうか、幼稚園の實際にあたるものは反省してみたい。幼児は不足がちな設備のよくない幼稚園へもよろこんで來てくれる。誘導の不充分な教師と一緒によく、楽しくお友達と遊んでくれる。教師たちは幼児のこの二つに對しても、もつともつとむくいなければならぬ。幼稚園の幼児を一番よく理解しているものは受持の教師である。一人一人の幼児がど

んな家庭の環境にいるか、その幼児の身心の發達の態はどんな程度か、何に興味をもっているか、どんな特徴をもっているか、など一人一人の幼児の狀態が最もよく知られている。他方においては幼児は受持の教師を絶體的に信賴して、最大の安定感をもっている。この兩者の關係を考へた時に、幼稚園のカリキュラムの編成は、誰が最も適任者であるかが明瞭になつて來るのである。最もよきカリキュラムはその幼児を最もよく知る幼稚園の實際家の手によつて作られるものである。日本全國幼稚園のカリキュラムの反省期にのぞんで幼稚園の實際家の手によつて、カリキュラムの再検討を望んでやまないものである。

幼稚園教育のねらいが「よき幼児」であつて子供としてよき身心の成長發達をのぞんでいるのである。いたづらに特種の知的、或は情操的方面に偏した保育は、普通の幼稚園教育のさけなければならないものであらうと思われる。



幼 稚 園 の う た

作 詞

倉 橋 惣 三

そつぎようしき

そつぎようしき で うれしいな

せんせい が た や おきやくさま

わたし は しよくがが じよくづです

ぼくらの ゆうぎを みてください

ここは ぼくらの ようちえん

わたくしたちの ようちえん

みんなで あそんだ ようちえん

なかよし どうしの ようちえん

こんどは しょうがく いちねんせい

せんせい さよなら ありがとう

みんな なかよし おともだち

もいちど びんき に さようなら

そつぎょうしき

楽しく J-約138

倉橋惣三作詞
小松耕輔作曲

mf

そつぎょうしきでー
ここはほくらの
こんどはしょうがく

f

うれしいな せんせい がたや おきやくさま わたしは
ようちえん わたくし たちの ようちえん みんなで
いちねんせい せんせい さよなら ありがとう みーんな

mf

しょうかが しょうすてす ほくらの ゆうぎを みてください
あそんだ ようちえん なかよし どうしの ようちえん
なかよし おともだち もいちど げんきに さようなら



幼稚園の P・T・A

(ソ聯幼稚園の両親委員会の活動)

雑誌「就學前教育」一九五〇年第八號・モスクワから

多田鐵雄

ソ聯の幼稚園については以前紹介したことがあるが、當課で諸外國の幼稚園に關する資料を集めている中に、本文を見出したので課員櫻井昭一氏に委嘱して譯出してもらった。——文部省調査普及局調査課多田鐵雄

第二次大戰後ソヴェト政府の未成年者に對する配慮は、特に彼等の健康強化——即ち衛生施設・屋外睡眠施設・兒童サナトリウムの設置・兒童の郊外施設への一定期間の移住・幼稚園領域の緑化・運動場の整備等——に向けられた。従前より、「一般社會諸機關も各ソヴェト市民も就學前教育・學校教育等に出來る限り接近することにより、國民教育の發展に協力せねばならぬ」(一九二七年四月十六日第三回ソヴェト大會決議) ことになつて居り、社會一般の就學前教育發展への積極的な参加が要望されていたのであるが、幼兒の健康強化という戦後の新目標達成の爲に、全ソ連邦労働組合中央會議は「幼兒保育従事者の援助強化を労働組合機關の最も重

要な課題と見做す」(一九四七年一月十八日大會決議) 旨の指示を與えている。

又幼稚園自身も單に幼兒およびその両親の教育啓蒙に留らず、一般大衆に就學前教育の重要さを認識させ、その積極的な援助を得るための努力が要望されている。

共產黨、青年共產黨、労働組合諸機關と密接な連携を保つ幼稚園はそれらから全面的な援助を受けて戦後目標の實現を可能ならしめている。が種々の理由から、總ての幼稚園がそうだ、という譯ではない。そこで幼稚園と社會一般とを結びつける鎖となるものが要求された。この要求に應じて設けられたのが「両親委員會」であつた。これは幼兒の保護者によつて構成され、幼稚園長と協力して、幼稚園の生活全般に關與し、保護者に幼兒保育の正しい方法を知らせる爲、各家庭を訪問し、幼稚園との連絡を密ならしめるばかりでなく、ラジオ放送によつて廣く幼兒保育の重要性、必要性を宣傳したり、幼稚園長と共に工場へ赴いて晝休みに工具と談合した

りして一般の理解と協力を求めることが、この委員會の任務である。それでは實際にこの兩親委員會なるものは、如何なる活動をしているか。そつ一例を次に見よう。

X X X X X X X X X X

レニングラード州ポロフスク^(註3)地區幼稚園の兩親委員會は七人の委員から成つて居り、幼稚園長や州國民教育部^(註4)の助力の下に一九四七年に組織され、仕事を始めた。幼稚園長の説明指導を受けた後に委員は年間計畫および月別行事計畫を作り幼稚園長の確認を得た。行事は總ての保護者との密接な連絡の中に行われる。委員會は月に一―二度開かれ、席上委員は實行した行事の不備な點の正しい處理法を考慮したり、新しい行事の具體策を樹てたりする。今迄に委員會は次の様な仕事を行つて來た。

1 幼稚園領域の整備

委員は幼稚園長や黨地方委員との審議の結果、保護者大會を召集し、席上幼稚園醫師は夏の衛生設備について講演し、幼稚園長は夏の幼児の遊びについて語つた。その結果保護者達は皆幼児の爲に幼稚園領域の整備の必要を認めためたので、委員は、それではどの様な仕事を共同で出来るか相談を持ちかけそれに就ての委員會の案を紹介した。それは、交替で日曜日を一費せば保護者達は領域の整備を完うすることが出来るであろうということだつた。大會は、この保護者の力によつて整備するという案を採擇し、仕事の計畫を委員會に一任し

た。この日曜勞動の爲、保護者の中から責任者が選ばれた。例えば五月十六日の作業の責任者に選ばれた某は前以つて幼稚園長と共に領域を見て廻り、作業の方法および人員割當を計畫した。そして土曜日の夕方、保護者が幼児を引取りに來た時、彼は翌日の作業計畫を發表した。こういう具合で保護者の勤務の結果、一千米の小道が清掃され、木株が五十程根こぎされ、一百平方米の運動場が改善され、花壇が作られ、一三〇もの美しい植物が植えられ、水溜は埋められ芝生で蔽われた。更に一・五ヘクタールある領域から瓦礫が掃き取られ噴水井戸も設けられた。砂場の砂が足りぬと見るや委員會は機械工場長に助けを求めたので、六臺のトラックが幼稚園に砂を運んで來た。こうして幼児達は立派な領域を得、楽しい時を過している。

2 経営面への援助

幼稚園領域では保護者の努力により毎年〇・五ヘクタールづゝの土地が耕され、馬鈴薯や野菜が作られる。耕作・收穫等の仕事は日曜勞動で行われ、保護者により作業班が組織され、班長は作業進行状況を見、任務を與え、結果を委員會に報告する。作業活動を活潑ならしめる獎勵の意味で優秀な班員の寫眞が幼稚園の壁新聞に載せられる。こうした作業により一〇トンの收穫物が得られた。又馬鈴薯と臺所の屑で毎年仔豚が養われる。二年間に幼稚園は二百疋の良質の新鮮な肉を得た。

3 修理作業への援助

臺所用にと委員會は一軒の家を得たが、それは幼稚園から三十五軒も離れた地點にあつたので、委員會は村の企業施設機關の長に助力を求めた。その結果家は輸送された。又幼稚園が大修理を必要とした時、建築者は修理を永引かせたので委員長は、地區ソビエト執行委員長の所へ赴き、修理促進の援助を得た。その他、保護者は建築用資料を整へ、修理後の後整理をしたりするのに百六十時間が費された。又六十三立方米の新整備の爲に保護者は協力し、それで浮いた三百ループリは幼稚園の塗裝費用に向けられた。過去二年間の保護者のかゝる努力は幼稚園の爲に一萬三百七十五ループリの節約を行つた。經濟的な心配から解放された幼稚園長は、幼稚園教育全般の指導、夏季コルホーズ保育所員養成に専念出来る様になつた。

4 保育用品製作の援助

委員會の主導の下に保護者達は、幼児の爲の道具——小シヤベル・小バケツ等を作つた。又幼児のエプロン製作を幼稚園から依頼された時も保護者達は喜んで應じた。祭日の爲の幼児の制服も縫い上げた。こうした事は保護者に幼児保育の責任を自覺させ、家庭における正しい養育へと導いている。

5 家庭と委員會との連絡

最初委員會は家庭における正しい幼児保育に自分が如何なる役割を果すべきかを知らなかつたが、幼稚園の仕事に接する様になり、委員會は單に幼稚園への援助に留らず、一般保護者の間に就學前教育の重要さを強調する役割をも果さねばならないと理解し、この理解の上に、ラヂオによつて幼稚園の生活内容を知らせ、幼児を幼稚園に入園させることを各家庭にすゝめてゐる。が委員會と家庭との連絡は單に幼児を幼稚園に引入れただけで終るものでなく、更に委員は幼稚園長と共に家庭を訪れて幼児保育の状態を観察し、良い點に留意し、變更すべき點を忠告する。これによつて委員は自分の幼兒を家庭で正しく指導し、それを他の家庭にも傳えねばならないことを理解する。保護者大會では委員會は代表的な幼児保育を行つてゐる家庭の様子を紹介し、その両親自身も出席して自分等の體驗を述べた。

國際婦人デーには委員會の主催により母の夕べが行われ、^(註5) 幼児の作品および保護者の業績の數々を示す展覽會を催された。

委員會の努力により、保護者の幼児への注意は深まり、多くの母親は單なる御客ではなく、積極的な援助者として幼稚園を訪れるようになった。

以上の如く述べたこの委員會の委員長は最後に「我々が多くのことを成したとは斷言出来ないが、しかし幼児の正しい教育の爲に幼稚園と家庭との密接な連絡の重要性を充分に理解することが出来た。我々は更に、より密接な連携・協力に

よつて正しい幼児教育を促進せしめ、その中から共產主義社會の有能な建設者を育成せねばならない」と結んでゐる。

所でロシア共和國教育科學アカデミーの一準會員は、兩親委員會は、幼稚園と社會一般と結ぶ鎖であるに拘わらず、社會一般と孤立して仕事をしてゐる委員會や、又單に幼稚園の經營面の援助だけに留つてゐる委員會のあることを指摘し、更に幼稚園長の任務は就學前教育諸問題にマツチして幼稚園活動の具體的プランによつて委員會の仕事を方向づけ、委員會が幼稚園および家庭への種々の計畫を樹てることに助力すべきであるに反して、或幼稚園長は委員達を全然激勵せず、社會一般の間に兩親委員會の權威を高める何の手段も構じていないことを批難し、來年度始めにおける幼稚園の仕事は委員の改選であり、候補者の登用・吟味および新メンバーの活躍に深い注意を拂うことが望ましいと言つてゐる。そして就學前教育發展への社會一般の参加が幼児の早期よりの規律ある社會教育の實行並びに母性・幼児保護の爲の國の全政策に緊密な關係のあることを想起し、社會一般との活動の中に、正しい政策的一線を引くことが、國民教育部および幼稚園長にとつて必要であると述べてゐる。

——「就學前教育」(一九五〇年第八號・モスクワ)より——

X X X

註1 ソヴェト大會：一九三六年新憲法施行以前のソ連の最高國家

權力機關。現在では連邦最高會議がその任に當つてゐる。

註2 全ソ連邦労働組合中央會議：ソ連の労働組合は單なる労働者

の團體でなく、國家的經濟管理をも行い官廳の性格を有する。組合活動の中心は各生産地の中央委員會であり、中央

會議はそれを統轄してゐる。

註3 レニングラード州ポロソフ地區：ソ連の州とは帝政時代の縣

を數箇集めた行政單位。地區は村の上位にあり州の下位にある。行政單位。

註4 州國民教育部：地方教育行政機關。この下に更に、地區および市國民教育部がある。

註5 國際婦人デー：婦人労働者の動員およびその社會主義建設への導入を目的としたプロレタリア祝祭日の一つで三月八日である。この日には優秀な婦人労働者の表彰が行われる。

一九一三年に設けられた。

註6 ロシア共和國教育科學アカデミー：ロシア共和國はソ連邦を

構成する一共和國で、レニングラード州もこの中にある。

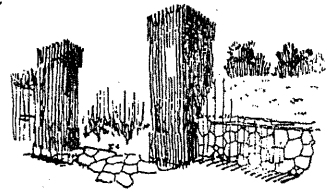
ソ連には連邦科學アカデミーと共和國科學アカデミーとがあり、この教育科學アカデミーはロシア共和國科學アカデミーから第二次大戦中に分離、獨立したもの。教育に關する諸般の研究を行い、又若い學者および教授の養成、博士

號受験者の豫備教育も行つてゐる。

カリキュラムはこうしてつくられる(一)

静岡大学教授

鈴木信政



まえがき

カリキュラムという言葉を開くと、何となく進歩的なそして新鮮な感じがする。それで誰れもカリキュラムのことを口にしなければ一人前でないような気がして、研究のお仲間入りをする。然しいざやってみると、仲々容易なことではない。毎日の仕事には追われる。そこで既成の〇〇幼稚園カリキュラムとか△△保育園カリキュラムをそのまま借用したり或は改訂利用したりしてすませたりする。

カリキュラム研究について、今までも既に幾つも立派なものもが公にされている。しかし、よそのカリキュラムをそのままに使用したり、まねたりしたら、受持たれてる子供達こそ迷惑であり不幸であろう。こんな浅薄なやりかたはあくまで排撃したい。すべての保育實際家は容易に得難たい保育経験というものをもっている。この尊い経験を生かしていく工夫こそ

望ましいのである。實際家として持つてゐる毎日の尊い保育経験を生かしながら、その保育の流れに、科學性・客観性・計畫性などを加えていけば、眞に生々とした獨特の保育カリキュラムが生まれてくる。

そこで實際家の立場に重點をおいて、保育カリキュラムはどうやつてつくればいいのかということについて述べてみたい。それから餘り抽象的にのみならぬように、具體例として静岡大學附屬幼稚園職員の勞作になる試案を藉りることとする。

これは此の通りをどこにでも勧めるというのでは全然なくカリキュラム構成の一つの手順を示したものに過ぎないことをしつかりおことわりしておく。

一、カリキュラムをつくる要領

保育カリキュラムも今日では子供の遊びを中心とする経験

カリキュラムが最も進歩的なものであるということに一應落ちついている。それで私は先づこの経験カリキュラムの大事を述べてから、作る手順に入つていきたいと思う。経験カリキュラムは子供の生活現實（經驗）に正面から取り組み、現實の問題解決を中心として過去現在の文化財を活用していくとして知識・技能・鑑賞・態度が原理的にも應用的にも分裂せず有機的に融け合つて、うまく現實の諸問題を處理してけるように統一的な人格をつくるのを目指しているわけである。参考までに経験カリキュラムの特質を簡単に述べてみる。

(イ) 内容面……子供の生活現實即ち子供の經驗を中心とするること

○生長の主體は子供であるから、子供の經驗が保育の源泉となる。將來の大人へと生長すべき子供の今の經驗をその中心内容とする。

○個人と社會とは補足關係に立つ。子供の經驗は個人的であると同時に社會的であるから、個人的問題も社會的問題も齊しく含まれている。

○現實問題の解決のために凡ての文化財の活用をはかる。すなわち過去が現在に奉仕する形をとり、現在のものに重點を置くようにする。

(ロ) 形式面……教科目という傳統的な枠をとりはづし、生活問題解決を中心として総合的取扱をする
こと

○子供の興味や要求を重視する。

○綜合學習に於ては問題解決のために多種多様な子供の活動が有機的に展開される。

調査・測定・計畫・見學・遠足・描畫・製作・劇・談合い等

(ハ) 過程面……共同構成によること

○生活現實とは郷土社會に於ける子供の生活であるから關係各方面の多様な意見が加えられる。

○教師・學識經驗者・地域社會人・子供等の共同作業による。

○手順 (1) 教育目標の決定

(2) 子供の發達系列（子供の要求）の調査と決定

(3) 生活機構（社會の要求）の調査と決定

(4) 子供の要求と社會の要求との組合せによる學年別問題の作成

(5) 學習指導要領の作成

さて經驗カリキュラムの中心課程の内容は子供が實際生活に於て直面する生活諸問題即ち遊びを中心とする子供の經驗であろう。そして子供の自主性や自發性の芽生えを育てるため、子供が先生の指導の下に躬から問題發見・計畫・實行・評價等ができるようなものでなければならぬ。子供の主體的活動をあくまで尊重するが、先生の指導という偉大な支柱によつて調和性・統一性が保たれる。この指導にはどうして

も事前計畫というものが必要とならう。この事前計畫こそ問題となつてゐるカリキュラムに他ならないのである。カリキュラムは豫備計畫という地位に立ち、子供の實際活動の場に於てはつきり決定される。子供の具體的な要求や興味に應じて伸縮自在のもの、大中の柔軟性をもつたものでなければならぬ。

教育の地方分権化の徹底してゐる米國では各州にカリキュラム構成委員會が設けられて居り、州單位にカリキュラム構成が企てられ、更に具體的にするため都市計畫も見られる。

我國でも今日、中央依存の規格標準的態度はだん／＼に放棄される傾向が強い。それでカリキュラム構成に於ては府縣單位或は土地の情況によつては都市計畫が望ましく、各種學校の共同事業としての綜合計畫が好ましいことになる。

一、カリキュラムをつくる手順

手順に就ては既に構成過程の中に大體述べておいたので、その順序に従つて具體的に例示しながら述べていこうと思ふ。

1、教育目標の決定

教育の目的及び目標は學校教育法第七十七條と第七十八條で規定されているが、目標については保育の實際面とよく照らし合せて更に具體化され、各府縣や各都市にとつて最も望ましい目標が設定されるであらう。

2、子供調査

子供の發達系列（子供の要求の面）の調査と決定には大きな努力と時間を必要とするけれども、これが凡ゆるものゝ基盤となるものであるから、どうしてもやつて置かねばならない。その基礎資料をとるためには、左記の調査を必要とするであらう。

(1) 子供の身體的發達の調査

項目	數量		數量		數量		數量	
	實數	%	實數	%	實數	%	實數	%
蛔虫	42	61	19	27	6	9	2	3
腸腸虫卵	69	100	0	0	0	0	0	0
鞭・虫卵	66	96	3	4	0	0	0	0

寄生虫 (調査人員 69名)

仕なる既症

(調査人員 69名)

病名	實數	%	病名	實數	%	病名	實數	%
先天性股關節脱臼	2	3	消化不良	4	6	腸胃轉化	5	7
肺炎	3	4	中耳炎	1	1	(與注意)		

ペリヤツシ.....身體充實度

組別 指數	年長組				年少組					
	24年4月		25年4月		25年9月		25年9月			
	實數	%	實數	%	實數	%	實數	%		
99 ~ 95	0	0	7	17	4	9	9	36	2	8
94 ~ 93	16	43	28	65	26	61	13	52	20	84
89 ~ 85	15	41	7	17	13	30	3	12	2	8
84 ~ 80	6	16	0	0	0	0	0	0	0	0
計	37	100	42	100	43	100	25	100	24	100

體格検査

(身長→cm・體重→kg)

組別 年長組 年少組	期 間	(24年度) 4月 ~ 9月			9月 ~ 12月			12月 ~ 3月			24年度集計			(24年度) 4月 ~ 9月		
		Σm	N	M	Σm	N	M	Σm	N	M	Σm	N	M	Σm	N	M
		身長	121.6	45	2.7	35.7	45	0.79	57.3	44	1.30	214.6	45	4.77	107.1	43
體重	41.7	45	0.926	34.8	45	0.77	21.8	44	0.49	98.3	45	2.18	18.6	43	0.432	
身長	79.4	33	2.4	45.7	38	1.20	37.1	38	0.98	184.3	33	5.58	69.7	25	5.788	
體重	23.8	33	0.721	27.1	38	0.713	16.1	38	0.423	75.6	33	2.29	11.6	25	0.464	

體力テスト O距離.....兩足踏み

組別	回数	距離																計
		100以下	101~200	201~300	301~400	401~500	501~600	601~700	701~800	801~900	900	計						
年長組	實數	5	15	9	3	3	2	0	0	0	0	0	0	4	41			
	%	12	35	22	7	7	5	0	0	0	0	0	10	93				
年少組	實數	15	3	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	24				
	%	63	13	13	4	4	4	0	0	0	0	0	101					

O走 力.....20m

組別	秒	時間																計
		4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~6.9	7.0~7.4	7.5~7.9	計									
年長組	實數	5	19	9	7	3	0	0	43									
	%	12	44	21	16	7	0	100										
年少組	實數	0	3	11	6	1	3	1	23									
	%	0	1	44	24	4	12	100										

O走り投げ.....20瓦

組別	m	距離																計
		4m以下	4.01~6	6.01~8	8.0~10	10.01	12	12.01~14	14.01	16	16.0~18	18.01~20	20.01m以上	計				
年長組	男	0	0	2	1	4	9	2	0	0	0	0	1	9				
	實數%	0	0	11	5	21	47	11	0	0	0	0	5	109				
年少組	女	0	12	9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	23				
	實數%	0	52	39	9	0	0	0	0	0	0	0	100					
年少組	男	0	0	2	2	3	3	1	0	0	0	0	11					
	實數%	0	0	18	18	27	27	9	0	0	0	0	99					
年少組	女	4	6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	15					
	實數%	27	40	33	0	0	0	0	0	0	0	0	100					

○懸垂

組別	時間	(1分)					(2分)					計
		0~20	21~40	41~60	61~80	81~100	100~120	121~140	141	計		
年長組	實數	1	5	11	20	4	1	1	43			
	%	2	12	26	47	9	2	2	100			
年少組	實數	3	13	6	0	0	3	0	25			
	%	12	52	24	0	0	12	0	100			

○梯子登り.....九段の二間梯子、5°の傾斜に

組別	段数	登れない					計
		9	8	7	6	5	
年長組	實數	39	1	1	0	1	43
	%	91	2	2	0	2	99
年少組	實數	23	0	2	1	0	26
	%	88	0	8	4	0	100

○跳び下り.....跳び箱

組別	段数	計				
		8	7	6	5	計
年長組	實數	39	1	1	1	42
	%	93	2	2	2	99
年少組	實數	24	0	2	0	26
	%	92	0	8	0	100

跳び箱 8段 121 7段...104 6段...100 5段...76(cm)

○立中跳び

組別	cm	高さ										計
		60以下	61	81	101	121	141	160	計			
年長組	實數	0	1	15	15	11	1	43				
	%	0	2	35	35	26	2	100				
年少組	實數	1	1	10	11	2	0	25				
	%	4	4	40	44	8	0	100				

○梯子渡り.....九段の二間梯子を垂平に50cmの高さに

組別	段数	完全に渡れたもの										計	
		9	8	7	6	5	9	6	4	9	5		
年長組	實數	32	3	0	0	1	2	0	1	3	0	1	43
	%	75	7	0	0	2	5	0	2	7	0	2	100
年少組	實數	11	3	1	2	1	0	1	0	4	1	0	24
	%	46	13	4	8	4	0	4	0	17	4	0	100

○平均運動.....全長3m70cmの平均台

組別	段階	完全にわたったもの					途中で落ちてしまったもの	計
		実數	%	実數	%	実數		
年長組	實數	35	5	2	42			
	%	83	12	5	100			
年少組	實數	17	1	8	26			
	%	65	4	31	100			

ハ 基本的習慣

(調査人員 69名)

(1) 食事の癖

項目	品	等	實數	%	項目	品	等	實數	%
イ、食前の手洗い	何時もする		45	65	ハ、食べ方	箸を使って食べる		67	97
	汚れた時だけする		23	33		お匙で食べる		1	1
	何時もしない		0	0		食べさせてもらう		1	1
ロ、好き嫌い	ぜんぜんない		15	22	きめている		2	3	
	少しはある		42	61	大體何時も同じ		49	71	
	あ る		12	17	むらがある		18	26	

(2) 排泄の癖

イ、時刻	きまつている		10	14	ハ、夜尿	ぜんぜんしない		55	80
	大體きまつている		42	61		ときどきする		13	19
	きまつてない		16	23		よくする		1	1
ロ、行き方	ひとりでおゆく		67	97					
	ベソツをぬがせてや ればゆく		0	0					
	ついて行つてもらふ		2	3					

(3) 睡眠の癖

イ、就寝起床の時刻 (睡眠時間)	きめている	17	25	ハ、晝寝	しない	61	88		
		大體きめている	44			64	ときどきする	8	12
	きめていない	4	6		晝寝の時間	毎日する	0	0	
		就寝	最も早い人			七時	15	22	一時間
	起床	最も早い時刻	七時		24	35	一・五時間	3	4
		最も遅い人	九時		10	14	二時間	2	3
	睡眠時間	最も早い人	五・半時		2	3	ひとりでゆく	48	69
		最も多い時刻	七時		28	41	時々自分でゆく	10	14
	床	最も遅い人	八時		1	1	手傳つてもらふ	7	10
		最も短い人	九時間		1	1			
	睡眠時間	最も多い時間	十一時間		26	38			
		最も長い人	十二時間		1	1			

(4) 挨拶

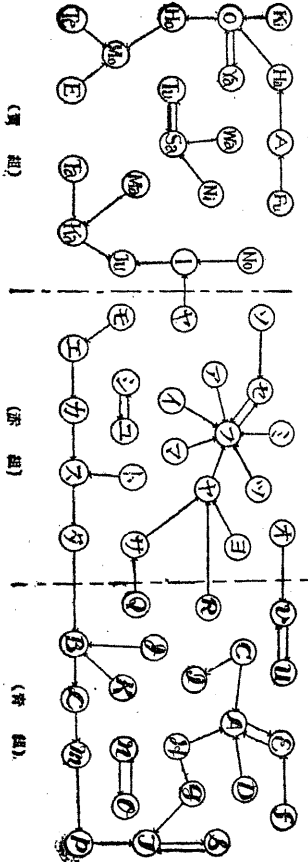
イ、朝晩の挨拶	何時もする	21	30	ハ、登園下園の挨拶	何時もする	65	94
	時々する	45	65		時々する	3	4
	何時も出来ない	3	4		何時も出来ない	1	1
ロ、食前食後の挨拶	何時もする	43	62	ホ、客席に對する挨拶	何時もする	21	30
	時々する	22	32		時々する	42	61
	何時も出来ない	3	4		何時も出来ない	6	9

(5) 其 他

1、着衣脱衣	獨りでする	36	52	下	獨りではく	51	74
	時々自分でする	30	43		時々自分ではく	14	20
	してもらう	3	4		はかせてもらう	2	3
歯みがき 、くちをゆすぐ 、かおをあらう	獨りでする	41	58	髪、髪 の毛	獨りではく	27	39
	言われたりする	27	39		時々自分ではく	17	25
	しない	1	1		時々自分ではく とかせてもらう	15	22
へ、鼻をかむこと	獨りでする	62	90	ボタンをかける 、パンツをはく	獨りではく	53	81
	時々自分でする	6	9		時々自分でする	11	16
	かんでもらう	1	1		手傳つてもらう	1	1
(6) 概 評							
一種りの身支度	自分でする	42	61				
	言われたり、とりにかする	19	28				
	手傳つてもらう	7	10				

(ロ) 子供の社会意識・歴史意識の發達の調査

社会的発達 交友關係



○お友達の好きな理由

項目	項目	目	實 數	項目	目	實 數
性格的なもの	仲よしだから		12	家が近所だから		15
	しんせつだから		8	家と家との交際があるから		1
	おとなしいから		6	可愛いいから		4
	やさしいから		6	よい洋服をきているから		2
	おもしろいことを言うから		5	字をよく知っているから		1
あそびによるもの	おちやめたから		1	歌が上手だから		2
	よく笑うから		1	競争が早いから		1
	仲よくあそんでくれるから		16	お角力が強いから		1
あそびによるもの	おもしろいあそびをするから		6	げんきだから		1
理由の言えないもの			13			

あそびの調査……観察により行動記録をする

項目	無 為	傍 觀 者	獨 り 遊 び	平 行 的 行 動	妨 害 者	こ び 甘 え る 子	連 合 的 遊 び	協 同 的 遊 び	組 別	
									實 數	%
年長組	0	12	15	22	1	2	63	10	實 數	0
	0	9	2	18	1	2	50	8	%	0
年少組	0	7	8	26	1	1	13	2	實 數	0
	0	9	36	33	1	1	17	3	%	0

社會性について

(調査人員 69)

項目	品等	實數	%	項目	品等	實數	%
登園	一人で出来る	57	82	言い、付け	守ろうとする	46	67
	時々附添つてもらふ	7	10		時々はまもれる	21	3
後仕未	附添つてもらふ	5	7	言われた仕事	まもれない	1	1
	自分でする	26	38		やりとげようとする	35	51
登園の準備	言われたりする	40	58	挨拶	時々やる	29	42
	やつてもらふ	1	1		中々やれない	5	7
	自分でする	18	26		いつもよく出来る	18	26
遊び仲間	時々手傳つてもらふ	45	65	呼ばれた時 (返事)	時々する	50	72
	してもらふ	6	9		できない	1	1
遊び場所	大勢であそぶ	23	3	お客様に對する 挨拶	よばれるとすぐする	37	54
	二三人であそぶ	44	64		時々気が付くとする	23	33
自他のもの 區別	一人であそぶ	2	3	おやつので分配	返事をしない	3	4
	遠くの友達の前にもゆく	13	19		よく出来る	20	29
	お家の近所であそぶ	47	68		ときどきおかわれる	32	46
物の取扱	家の中であそぶ	11	16	遊び方	しない	7	10
	よくでできる	66	96		仲よく分けあふ	43	62
	時々まちがえる	3	4		言われたれば分ける	22	32
	よくまちがえる	0	0		ひとりじめにする	2	3
	大切にす	19	28		仲よくあそぶ	26	38
	ふつう	46	67		時々けんかをする	43	62
	をまつにする	4	6		よくけんかをする	1	1

(ハ) 子供の情緒的發達の調査 情緒について

(調査人員 67名)

項目	品	等	實	數	%	項目	品	等	實	數	%
あそびのとき	遊び友達も少くいつも びくびくしている	幼稚園からのお便りや會計袋を贈つたらすぐ出す	46	69	0	仕事を中断された時	いわれなくてもやめない	見なれないものでもあまり恐れない	11	16	16
		時々忘れる	22	30				はじめ、恐がつても馴れれば割合卒業	39	24	
責任を重んずる	注意されてもおすれる	約束ばどんなときにも守れる	10	15	0	恐怖心	見知らぬものをみると恐れる	他人にきかれたときはずき返事が出来る	16	24	58
		大體守れる	56	84				はじり返事が出来る	38	57	
父母との約束	守れたことがない	いつも止めてやる	30	44	1	羞恥心	答えられない	思つた事をたのしそ5にはつきり話す	13	20	54
		悪いと思つてもだまつている	29	43				大ていの事はおはなしする	35	54	
遊びの邪魔をする子供に對して	自分も悪い仲間に入る	最後まで熱心にきく	42	63	1	話をする時	うながされても中々話をしない	遊びのよいわるいかわかる	28	42	6
		時々気が散つて言われると気が付く	23	34				人から言われればよいわるいの判断が出来る	4	6	
お話をきくと	殆んどきこうとしない	あきらめて他のことをする	1	1	2	遊びの批判	よいわるいかわからない	よくてきばきと解放する	39	58	0
		しぶしぶ仕事をやめる	26	34				よくてきばきと解放する	27	40	
自分の希望のいれられなかつた時	かんしやくを起す	可愛そうな話をきくと	8	89	26	困つた時	泣いたりずねたりする	よくてきばきと解放する	9	13	0
		自分より小さな者には	60	89				泣いたりずねたりする	45	67	
同情心	同情心がな	自分より小さな者には	8	12	8	困つた時	泣いたりずねたりする	泣いたりずねたりする	11	16	16
		同情心がな	0	0				泣いたりずねたりする	11	16	

(二) 學智能力の調査
知能テスト

○田中ビネー法

段階	別	最劣 劣 中の下 中 中の上 優 最優											計
		70以下	70-80	80-90	9-110	110-120	120-140	140以上					
年長組	實數	0	0	1	29	12	6						43
	%	0	0	2	7	23	21						100
年少組	實數	0	0	1	7	6	10						25
	%	0	0	4	28	24	40						100

○乳幼児簡易テスト

段階	別	最劣 劣 中の下 中 中の上 優 最優											計
		70以下	70-80	80-90	90-110	110-120	120-140	140以上					
年長組	實數	0	1	6	1	19	8						37
	%	0	3	16	3	51	22						100

○ワットイヤツ

段階	別	最劣 劣 中の下 中 中の上 優 最優											計
		70以下	70-80	80-90	90-110	110-120	120-140	140以上					
年長組	實數	0	0	4	14	5	11						38
	%	0	0	11	37	13	29						101

(ホ) 子供の興味及び要求の發達の調査
興味について

遊びの種類………家庭でのあそび

(調査人員 67名)

項目	25年4月	25年9月	項目	25年4月	25年9月	項目	25年4月	25年9月
機能的遊び	53 (39%)	39 (27%)	ビー玉	1	0	5りやさんごっこ	3	3
飛びはなて遊ぶ	0	1	二輪車	3	4	水あそび	3	0
木登り	0	1	三輪車	7	4	受容の遊び	24 (18%)	29 (21%)
なわとび	2	1	フラソコ	3	5	繪本	15	17
競争	0	2	鐵棒	0	2	ぬりえ	2	10
二人三脚	0	1	スケート	2	0	遊戯	4	1
魚つりえびかたとり	7	3	ボールあそび	2	1	カルタあそび	1	0
ダンス遊び	0	1	仮想的遊び	36 (27%)	50 (35%)	文字あそび	0	1
虫取り	1	0	ままごとあそび	23	26	ビヤソ	1	0
野球	3	2	おもちゃあそび	1	3	歌を唄う	1	0
球投げ	7	1	幼稚園ごっこ	2	3	創作的遊び	22 (16%)	26 (18%)
かくれんぼ	4	4	運動會ごっこ	0	1			
おにごっこ	3	2	人形ごっこ	1	6	積木あそび	4	3
めんこ	0	2	銀行ごっこ	0	1	砂あそび	8	7
石蹴り	0	1	動物ごっこ	1	2	おさいく	4	5
おはじき	0	1	かりものごっこ	2	4	お繪かき	5	11
毬つき	8	0	戦争ごっこ	0	1	機械いじり	1	0

項目	品等	實數	%	項目	品等	實數	%	項目	品等	實數	%
いつも何人で遊ぶか	獨り	3	4	年長児	28	41	1	1	1	1	1
	二三人	57	83	同年児	26	38	47	67	67	67	67
	大勢	8	13	年少児	5	7	18	18	18	18	18
遊ぶ場所	家の中	31	44	同性	52	75					
	家の外	44	64	混合	1	1					
	割合違方までゆく	13	19	異性	10	14					

(く) 学年區分の研究調査

この時期は心身發達度の最も著しい時期であることが既に科學的に立證されているから、三年・二年・一年と區別すべきであろう。實際上に於ては、大部分一ヶ年保育児であるから、一年課程として一應考えても差支えあるまい。然し學校教育法第八十條で滿三才から滿五才までの子供を取扱うことになつてゐることを考へれば、二年課程・三年課程が當然研究されなければなるまい。同じものを二ヶ年或は三ヶ年繰り返えされては子供こそいゝ迷惑であり、子供の生長發達を無視したことになる。

兒等はめぐし

京都 寺西 聽學

朗かに伸びゆく兒等はめぐしもよ我が心ぬち老を知らなく
 寒風にめげず日毎を群れ遊ぶ兒等はめぐしも佛の子なれば
 集たちゆく兒等の前途をおもひつゝ春の別れを惜しみやはする

(シム)



ア
メ
リ
カ
童
話
か
ら
9

松原至大

子熊のスター

ここは丸太小屋です。お臺所から食器を並べる音が聞こえてきたので、ピリー君はベットからとび出しました。急いでシャツを着ていますと、お母さんがドアのところにおいでになりました。

「ほく、すぐ、支度をします、お母さん。」と、ピリー君は言いました。

今日は、黒いちごをとりに行く、うれしい日でした。ピリー君は、朝の森のかおりが好きでした。雪を頂いた山から、鑛山で働く人たちのキャンプのあたりに吹きおろしてくるすがすがしい空気が好きなのでした。ピリー君は、生れながらのアラスカ人といわれる、ほんとうの「ソードー」でした。アラスカは、北アメリカの西北にある半島で、「ソードー」というのは「山の子」というてよいのでしよう。

「ゆうべのあらしの後ですから、行けましようかねえ？」と、お母さんは心配の御様子でした。「森はぬれているし黒いちごは、だいなしになつていますよ。」

「あらしつて？」と、ピリー君はお聞きするのでした。

「まあ、と、お母さんはあきれていらつしやいます。「あなた、御存じなかつたの。よく寝こんでいらしつたのね。」

ゆうべ、あんなに雨と風とが、ひどかつたのに。お母さんは、この小屋が吹きとばされると思いましたよ。」
ピリー君は、窓にかけよつて、太陽が輝いでいる外をながめました。
「お母さん、でかけましょうよ。とてもよいお天気ですよ。」

お母さんは、あまりすすみませんでした。でも、こうおつしやいました。「いいわ。けど、急ぎましょうね。」

二人は、朝のお食事を急いでから、ピリー君は食器洗いのお手傳いをいたしました。それからピクニック・ランチを用意して、なれた黒いちこの畑へ出かけました。ところが、あらしはどこともかしこも荒していました。二人は倒れた丸太の上や、折れた枝の上を、ころばないように歩きました。

畑にくると、間もなく忙しくなりました。金の桶がぼんぼんと音を立てて、黒いちごが盛にとびこみました。どれも大きくふくらんで、眞黒で、ぬれた葉の間に、おいしそうに實つていました。

「とてもおいしそうだな。お日さまのような味だよ。」と、ピリー君は夢中でした。

その時、突然に二人は、聞きなれない音を耳にしました。うなるようなささやきで、向うがわのやぶの中から聞こえてくるのでした。

「まあ、一體、なんででしょう？」と、お母さんはおつしやいます。

「行つて、見ましょうよ。」と、ピリー君が答えます。

二人は氣をつけて、やぶの向うがわにまわりました。そこには、道を續ぎつて、根元から倒れた一本の松の木の下敷きになつて、一びきのお母さん熊が死んでいました。そしてその側に、お腹のすいた一匹の小さな子熊がいました。子熊は、ピリー君とお母さんを見ますと、齒をむいて、逃げようとした。けれど、まだ足がよちよちしていて、思うように歩けないものですから、わけなく捕えられました。お母さんは、いちこの桶に、子熊をしぼつた綱を結わえて、ピリー君に渡しました。

「ピリーちゃん、あなた、それをどうなさるつもり？」と、お母さんはおつしやいました。

「ぼく、お家へ連れてつて、飼つてやりたいな。」と、答えました。「生きた得物を持つて歸る探險家のような氣がしますよ、お母さん。」ピリー君の胸はおどつています。

「まあ、大へん。大きくなつたら、こわくなると思わないの？」と、お母さんは、つくづくと子熊を見ていらつしや

います。

「ほく、當分お父さんにお願ひしてあすかつて頂きます。いつしよに遊んで、馴らせたら面白いなあ。」

そこでピリー君は、お母さんに手傳つて頂いて、子熊を無事に丸太小屋のお家に連れてきました。ピリー君は、うれしくなりません。仲よしができたからであります。この子熊は、頭の上に五つの白いぼちぼちがありました。それで、スター（星のことですね。）と名をつけました。

スターは、とてもお腹がすいていました。夕飯の時には、ピリー君が幾年か前に使つたことのあるびんから、ミルクをごくんごくんとお飲みました。

「ピリーちゃん、この子熊が、ほんとうにあなたに馴れたら、どんなに楽しみでしょうね。」と、ある日のこと、お母さんがおつしやいました。

「こいつ、ぼくが好きですよ。だから、じきに馴らせませすよ。」と、ピリー君は得意で答えました。

ちようどその時、スターがはいてきて、ピリー君の膝の上に足をのせました。この子熊は、利口な性質でした。いつもうれしそうな顔をして、ピリー君の顔を見ました。

「こいつめ。」と、ピリー君がにらみました。「つめが鋭くなつたな。よし、教えてやるぞ。」

ピリー君は布切れを見つけて、猫にするように、つめをかくすことを覚えるまで、スターの足を包んでおきました。ピリー君は、スターのために、小さなテーブルといすを作つて、食事時になると、なにか食べるものを、だれかが持つてきてくれるまで、じつとひとり待っているようにしつけようとしました。時には、同じテーブルについて、つしよに食べることもありました。スターはこれ喜んで、身體を動かしてました。

ピリー君とスターは、かくれんぼやそのほかいろいろな遊びをしました。スターが、この小さな主人公の倍ぐらいも、身の文がのびたのは、それから間もないことでした。ピリー君について、スターがキャンブのあたりを散歩する姿は、まことに面白いながめでした。

ある夕方のこと、ピリー君が魚釣りからもどつてくると、見なれない人がお父さん、お母さんたちと夕食を食べていました。

「これが、お話した私のせがれと、熊ですよ。」と、お父さんがおつしやいました。「ピリーや、この方はヒリーさん

とおつしやつて、獵リョウにいらつしやつたのだよ。ヒリーさんは、合衆國の方に、サーカスを持つていらつしやるので、スターを買いたいとおつしやるのだよ。」

「スターを？」と、ピリー君はおどろいて聞き返しました。

「そうよ。スターはもう大きくなりすぎて、あなたのお友だちにはなれませんよ。これ以上育つと、野獸ですからあぶくなります。」と、お母さんはおつしやいます。

「ピリーや、ヒリーさんに藝當ゲイヂョウをお目かけなさい。」と、お父さんはおつしやいます。

ピリー君は、涙を浮べて、お父さんたちの言葉に従いました。珍らしそうにしている人の前で、スターを檻ケの中に入れようなどは、考えるだけでも悲しいことでした。檻などに入れたら、きつとスターは、死んでしまうでしょう。スターは、ピリー君と同じように、森の中が好きです。風が好きです。太陽が好きです。

「これは、すばらしい動物ですね。高い値で、頂きましょう。」と、ヒリーさんは言いました「明日の晩までに、すつかり連れて行く用意をしておいて下さい。この十五日に合衆國に歸る船にのるつもりですから。」

「支度をしておこうな、ピリー。」と言つて、お父さんはほおえみしました。

この時、スターがはいつてきて、手をピリー君の膝の上にのせました。ピリー君は、スターに腕をかけて、眼に浮んだ涙をかくそうとしました。スターは、鼻をすすりました。

「わかるのだね。」と、ピリー君は思いました。「ぼくの言うことが、よくわかるのだ。」

その夜は、ピリー君は眼することもできませんでした。スターが、裏庭を歩いているのが聞こえました。ピリー君は出て行つて、話したくなりました。やつとのこと目がふさがつたのは、夜明け近くのことでした。

あくる朝、食事におりて行きますと、お母さんが「スターは、どこにいるの？」と、お聞きになりました。

「ああ、どこか、そこいらにいますよ。」と、ピリー君は冷めたく答えました。

けれど、おひるになつても、スターの姿は見えません。やがて、夕方となりました。ヒリーさんが來ました。けれど、スターの姿は、まだ見えません。みんなでスターの名を呼びながら、そこら中を探しました。でも、返事がありません。とうとうヒリーさんは、がっかりした上に、御きげんを悪くして歸つてしまいました。とうとうスターは、歸つてきませんでした。でも、ピリー君には、それがう

れしいのでした。あのスターが、この森から、この美しいアラスカの空の下から、消えてしまうなどは考えられなかつたからです。

「ぼく、二度とスターに會えるかどうかわからない。」と、ピリー君は悲しそうに言いました。「でも、どんなことがおこつてるのか、スターは知つていたんだよ。」

それを聞いて、お母さんはお笑いになつて、そんなことはありませんよとおつしやいました。けれど、ピリー君はスターがほかの熊とちがつていて、なんでもよくわかることを信じていました。そして、いつかはきつと、二度と會えるものと思ひました。

それから、長い月日が立ちました。ピリー君は、まくなつて、學校へ入るために、合衆國へ行くこととなりました。いよいよ出發する前の日に、お別れの魚釣りに行きました。

川が、入江になつたところを、ピリー君が靜かにボートにのつて漕いでいますと、釣りをしているのは、自分だけでないことを知りました。

長いヒマラヤ杉の丸太が、水の中に突き出た上に、お父さん熊と、お母さん熊がすわつて、釣りをしていました。堤の上では、二匹の子熊が遊んでいました。この親熊は、ピリー君に氣がつかないほどの熱心さで、水の流れを見ました。

突然、すばらしい早さで、お父さん熊が、水の中に手を突つこんで、銀色に光る魚をつかみ出しました。お父さん熊は、自慢そうに頭をあげて、お母さん熊を見てから、初めてピリー君の方を見ました。

その熊の額のところには、白い星がありました。

「あつ、スターだ、スターだ。」と、おどる胸をしづめて、ピリー君は呼びました。

スターは、じつとしていました。お母さん熊と子供たちは、びつくりして、姿を消しました。その中に、スターも子供たちの後を追つて、丸太のところを離れて、森の中に靜かに消えてしまいました。

ピリー君は、お家の方へボートを漕いで行きました。楽しそうに、笑いながら、今はもうスターが、お父さんになつてしまつて、森の毎日の生活に満足をしていることが、よくわかつたからです。

(マーガレット・サンダー女史の作による)

幼 兒 の 健 康 保 育 (九)

お茶の水女子大學助教
愛育 研究所 員 平 井 信 義

七 予 防 注 射 (つゞき)

今回は引續き、百日咳・ジフテリア・はしかの豫防についてお話ししよう。

先づ百日咳であります。百日咳菌ワクチンが用いられます。二週間隔で三回注射しますから、始めてから約一と月かかるわけです。三、四年前に市販されていた液は殆ど無効に近しいものが多かつたけれど、近頃のものには相當良好な効果が認められていますから、必ず注射をうけておくべきです。豫防接種法——御存じない方のために一言しておきますが、病氣の予防のために効果があると認められた注射を強制的に行う法律で、従来は種痘だけでしたが、ジフテリア、百日咳、腸チフス、パラチフスなどが含まられました。市町村長がその施行機關です。昭和廿三年に法律として定められたものです——この法律では百日咳は第一回を生後三〜六ヶ月に、第

二回は、第一回注射を完了してから一〜一・五年ということになつています。之はこの注射の効力が大體一年であるためです。一月に一回は必ず注射を受けるのがよいでしょう。アメリカでは一と月一回、即ち毎日追加免疫を行う様に指導しているところがありますが、よい方法だと思えます。健康診断に病院を訪れる度にしてもらえばよいわけです。

近頃のワクチンはアメリカのワクチンに似て、相當副作用が強い。即ち注射した晩は熱が三十八度位に上り、或いは注射をした場處が赤く脹れて相當強く痛がる場合があります。その反應は個人的に可成差が著しく、全然反應のない子供もあります。反應があるからといつて、豫防注射を中止するのは誠におろかです。一日二日の熱は、あの恐ろしい百日咳の咳に較べれば問題とならない筈です。何はともあれ、必ず受けましょう。

流行してから注射をうける、という考えが間違つていることは既に述べました。注射を終えてから約二た月して初めて

有効な免疫が出来るからです。流行しない前に終えて置く、流行しても大威張りでいたいものです。然し完全に予防出来るわけではないから注射があるからといって、病人に近づくことはいけません。

ジフテリアの豫防注射は、豫防接種法では生後六〜十二ヶ月、小學校入學前六ヶ月以内、小學校卒業前六ヶ月以内の三回に亘り、定期的に行うことになっています。百日咳と同様、二〜三週間隔で三回行いますから、百日咳と同時に打つても差支えないわけです。アメリカの注射液の様に、百日咳・ジフテリア・破傷風の三豫防液が一緒に入っている様なものがあれば、子供に二度の痛い思いをさせずに済みますから助かります。早く作られて欲しいと思います。

この副作用は極めて軽度です。注射をした場處が多少はれて赤くなり、軽い熱が出る場合がありますが、殆ど心配はありません。本来ならばジフテリア反応というのを豫め行い、陽性ものに豫防注射を行う——ツベルクリン反応と反射——のですか、七・八歳までの子供は統計からみて多くは反応が陽性なので、反應をみないで一齊に注射してしまつてもかまいません。

この注射の効力も、三回目の注射を終えてから四〜五週間最高に達しますから、隣の子供がジフテリアになつた、といつてからでは間に合わないのです。百日咳と同様、流行する前—ジフテリアは十二月頃から流行し始めますからその二た月前、即ち九月頃になさるのが最もよいと思ひます。

有効期間は四年以上と云われていますから、豫防接種法に定められてある通りに子供の時三回注射をうければよいでしょう。

はしかの豫防はなかなかむづかしい。普通は血清又は血液を用います。血液は注射した場處が非常にいたむから、急がないときには血清にして注射をしてもらえばよいのです。血清は母親でも父親でも若い者なら誰でも結構、50ccを注射器で採つて——50ccといつても月経時の總血重と同様です。

——それに操作を加えて一晝夜おくと、血球は一つの塊になつて沈み、血清のみが残るから、それをお尻の筋肉内に入れるのです。

この注射は、はしかに未感染のときは勿論、感染後に於ても潜伏期の早期に行えばよいのです。この點ジフテリア・百日咳の豫防液とは性質がちがいます。即ち隣の子供がはしからしい、とかかつてからで間に合います。但し潜伏期の五、六日以内に行うことが大切で、それ以後ですと相當大量用いても豫防出来ません。潜伏期は覚えていますか？ 約十日〜十三日です。一緒に遊んでいるとなりの子供がはしかにかつた、ということがわかつたら、その發病の第一日を、うちの子が感染してから四日目（潜伏第四日）と見なせばよいでしょう。即ちすぐに注射を行う必要があるのです。

この免疫は然し、せいぜい二ヶ月しか続きません。この點も百日咳・ジフテリアと性質がちがいます。即ち第一回目に豫防出来ても、又二三月後にその地區へ流行が來たら、再

び注射を行わなくてはなりません。一と冬に三回も注射をすることがあります。

血液の型は、輸血でないから考慮する必要はありません。何型でもかまわないことを附言しておきましょう。

この副作用は殆どありません。注射した場處が多少痛む程度です。之は濕布をすれば早く散ります。その他には全く心配いりません。

その他はしかの瘧りかけの子供の血液をもらつて注射する方法もあつて大變有効ですが、未だ他人に血液を分けてあげようという心のお母さんは殆んどない有様で、實行されていません。僅か五・〇ccでよいのですが。………

之ら豫防注射は、これをうけているものと受けていないものと非常に大きな差が表れています。即ちうけている者は殆どかゝらないか、かゝつても輕くてすむのです。ところが受けていない子供はひどくやられます。一卵性の双生児で偶然に片方に注射をしておかなかつたら、その子が相當重いジフテリアにかゝり、他児はのどが赤くなつた程度ですぎてしまつたことがあります。一日も早く全部の子供にゆきわたる様に希望して止みません。

幼稚園・保育所の先生方が、子供のためを思つて、わざわざお醫者に頼んで注射を受けさせておられるところがあります。本當に熱意あることゝ思います。ところがそれにいろいろと文句をいうお母さんがありますが、どうぞそれらを氣にしないで實行していただきたいと願います。將來、保健所が

充實すれば、先生方のそうした御心配は消滅し、どの子供も全部保健所の指圖に従つて注射を受けなければならぬ、——もし厭だというお母さんがあれば、法律で罰せられるのです。法律で罰する、などとおどし文句を使わねばならないとすれば、文化國家などとは言えないと思います。お母さんが保健所へ催促する位になつて欲しいのですが、——兎に角、保健所で之らをやつてくれれば、どんなにか幼稚園・保育所の先生方の心勞は省けることでしょう、それまでは然し、どうぞ頑張つていただきたいと願います。

八 健康保育の一日

朝の幼稚園・保育所が、子供を迎える準備を充分に整えておく可きことは、保育にとつて重要なことは勿論、健康保育にとつても極めて大切なことであります。その健康保育にとつては特に二つの意義を認めなくてはなりません。一つは清潔な雰圍氣、一つは精神衛生の在り場でありませぬ。

朝早く子供たちが飛ぶ様にしてやつて來ても、幼稚園や保育所の戸口がまだしまつてゐる、或いは子供を迎える先生が誰もいない、——室の中には玩具もクレオンも何も取揃えてない、それどころか前日の塵が積つてゐる、後片附もされてない、室はむんむんと埃くさい——こんなことがあるとすれば子供を心身共に毒する、といつても過言ではないでしょう。幼稚園へいく、ということとは子供にとつては精一杯の期

待なのであります。元氣よく家を出て、子供は決してゆつくり歩いてなどはいきません。道草さえ喰わなければ子供たちは耻け足であります。待ち設けてある子供の世界へとまつしぐらであります。それに應えて幼稚園での世界が子供たちを待つていて欲しいのです。にこにこ迎えてくれる先生、昨日も一日友であつた積木、そして清潔な清々しい室・机・椅子——みんな子供たちのこころの中に、無形の夢を養つてくれるものでありましよう。この夢がやがては理想となり、よい生活・健康な生活への希望となるものであります。夢を養う様な雰圍氣、——これが最も大切な幼稚園生活だと私は思つています。敷をおぼえることよりも、清潔のテクニツクを知ることよりも、もつともつと大切なことであります。

やがて朝の視診が始まります。朝の視診が健康保育の具體的な事項の中、最も大切であることは既に言葉を盡しました。

手洗い・口すゝぎなど健康教育の行事が一つ一つ繰りひろげられていきます。子供たちは一人一人順序を守りながら、自分からすゝんで手を洗い、口をすゝいでいます。要領よく早く片付けるもの、いつまでもかゝつてゆつくり構えているもの、いろいろの子供、——然しどの子もこの様な行事を楽しんでゐるのです。

健康保育に、日光と空氣が大切であることも繰返し申述べました。戶外保育を充分取入れた案、而も臨機應變に日光や空氣を利用するという心構え、——之らは本當に先生方の心

構え一つで出来るもので、子供たちの健康、不健康の岐れ道となるとさえ思われます。

やがてお辨當、——このお辨當については後述いたします。給食などについてもその際に考えてみましょう。

幼稚園では一〜二時頃に「お歸り」となります。「お歸りの歌」——これも又、子供たちは實に元氣よく歌います。お母さんの懷ろを想つているのでしよう、或いはおやつを考えているのかも知れません。引込思案の子供も實に大聲で歌います。「先生さようなら」この響きがそこに湧き起つて、しばらくあとには幼稚園は森閑となります。

然し先生方のお仕事はこれからです。今日の整理が残つてゐるのです。それと同時に明日のための準備が既に始まるのです。床や机を清掃して、疲れたからだを椅子にもたせながら、先生方には仕事があるのです。再び今日一日の子供について一人一人顔を思い浮べ、その子供たちの行動を考えてみるのです。元氣がありすぎて喧嘩をした正夫ちゃん、一昨日あたりからおあそびに進んで入らない佳子ちゃん、それぞれの問題について、先生自身の側と、子供の側とから考え合せてみましょう。その際にどんな問題であつても一應、子供の健康について充分考えていたゞきたいと思ひます。どうも健康に問題があると思われる子供には、早速母親への連絡の手紙を書く用意を始めましょう。或いは先生の歸り道に當るならば寄つていくことに致しましょう。

缺席した子供についても、電話をかけて様子をきくなり、

暇を見付けて寄つて見舞つてやることも忘れないでしましう。先生に見舞つて貰うことは、お醫者の薬よりもつとよい薬になることがありますから。

この他に、健康教育の積極的なプランを立てることも大切です。近頃、英夫ちゃんはどうもお手を洗いたがらない、たかしちゃんはおちんちんをいぢつてゐる。之れらを正しく導くにはどういう方法がよいだろうか、……いろいろな書類の整理もしなければならぬ忙しい中にも、園長先生や同僚の先生方と、その方法についてあれこれ語り合うこともしたいと思ひます。

冬の日は暮れ易い、そうこうしてゐる中にもうあたりは眞暗で、貧しい炭火ではしんしんと手足が冷えることでしよう。先生方の中には、それからお稽古にいかれる方もありましよう、家庭の仕事を手傳う方も澤山ありましよう、又、自分の身のまわりは自分で繕ひをしなければならぬでしよう。疲れたからだを床の中に横たえてからも、夢にも、いつも清潔の悪いみどりちゃんの姿が浮んで來ることもあるでしよう。

先生方、本當にご苦勞さんです。子供たちを育てる仕事は、蔭の仕事です。縁の下の力持ちです。責任を感ずれば感ずる程、重い縁であります。一日の健康教育を考へるときに、いつも先生方の御苦勞を思ひます。どうぞ自分の健康にも充分注意なさる様にと祈ります。

九 健康保育と疲勞について

子供たちにも先生方にとつても、幼稚園・保育所の生活が重荷となつて、疲勞を感じさせるものであつては困ります。どうもうちの子は疲れ易い、こういう訴えをするお母さんがあります。先生方自身の中にも疲れて困る、という方があります。一寸みると頑丈そうよく太つていて——こんなことを云うと怒る方があるかも知れませんが——それで非常に疲れ易い方があり、瘦せていても——之は私自身の例ですが——いくら頑張つても疲れないうち者もあります。

一體疲勞とはどんなものなのでしょう。私共日常生活に云いならわされた現象であり、よく自分に經驗してゐることでありますが、これをはつきり言い表わそうとすると、なかなか困難であります。ですから定義も「或る程度以上の肉體的又は精神的作業の結果として、その作業又は他の作業の能力が低下する現象」という漠然としたものなのです。づいづいいろいろな研究が行われてゐます。づい分澤山の學者がこの問題を解明しようとしてゐます。血液のいろいろな成分を見る方法もあります。尿をしらべる方法、感覺即ち視覺とか味覺についてしらべる方法、精神機能即ち反應時間や注意力をしらべたり、加算をさせる方法、循環系統や呼吸器系統神経系統の検査もあります。けれどもどの一つをとつてみてもはつきり之が疲勞の本態だ、といえるものがないのです。

しかも同じ様な條件についてみても個人個人によつて非常に異つた表れ方をし、その程度もまちまちです。その理由としては、その人のからだの弱點がどこにあるか、ということ

は勿論、その人が従事している仕事にどの程度の興味を持つているか、どの程度慣れているか、………その他、一般生活に、實に無数の刺戟をうけていること。之らの刺戟の成るものは、日常生活の上で、絶えず我々の精神を緊張させますしからだも必要以上に働かせるものであります。

しかし問題は之らの小さな刺戟以上に、煩悶・不安・恐怖といった中樞の中を駆けめぐる刺戟であります。この様な大きな刺戟のある生活環境の中に生活している者は、本當に不幸といわなければなりません。

更に、之らの刺戟をうけ入れる個人の側に、これらをうまく處理する能力があるかどうか、によつて疲労も非常に異つて來ます。煩悶が起きてそれを早く解決する様な方法を持つということ、不安や恐怖についても同様であります。——こう申上げると、結局、この世の中の見方・感じ方・考え方即ち人間の在り方の問題になつて來ると思ひます。

之らについては子供の精神衛生の項で再びお話ししたいと思ひますが、子供の精神衛生は、その大部分が子供を取巻いている環境の精神衛生である、ということだと思ひます。疲労からいさゝか話が脱線した感じがしますが、疲労もからだだけの問題とか、その人個人のこゝろだけの問題とかに限られていることでなく、その人を取巻いている環境の問題と共にそれに對處する仕方の問題という極めて廣範圍のものになつて來るのであります。

くどく申し述べましたが、疲労を強く感じる先生方に、御

自身のからだの問題と共に、いつも、いつも御自身のこゝろに影響を與えている出來ごとを考え、それに對處する仕方を研究なさると共に、それが子供たちにどう影響を持つていつてるかを考えていたゞきたいと思ひます。

疲れ易い子供についても、その子供のからだだけの問題としないで、その子供について、幼稚園・保育所の中でも刺戟の受け方・對し方、又家に歸つてからの家庭環境がどうかというこれまで及んで、いろいろと考えていかねばならぬことを、強く申上げたかつたのであります。

すぐ寢そべりたがる子供、戸外保育のあとなど泣虫になる子供、積極的に保育に入らない子供、——目の輝きのない子供、目のふちの黒い子供、活動に張りの少い子供、——注意と同情の目を持つて、そうした子供が一日も早く、悪い状態から抜けることか出来る様に、子供を支持してやりたいものであります。

次回は身體検査についてお話する豫定です。



幼稚園教員臨時養成所入學募集要項

(昭和二十六年年度)

お茶の水女子大學

幼稚園教育の重要性に鑑みて左の要項によつて幼稚園教員の臨時養成を行う

記

一、募集人員

約三十名

二、修業年限

一年

三、入學資格

次のいずれかの資格を有する女子にして昭和二十六年年度進學適性検査を受けたものに限る。

1、新制高等學校を卒業した者。
2、新制高等學校を卒業した者と同等以上の學力があると認められた者。

四、出願手續

1、志願者は本大に請求して「志願者名票」の交付を受け(郵送希望者は返信用封筒に切手を貼付同封すること)これに必要事項を記入の上添付書類とともに提出すること。志願者名票を郵送するときは必ず書留郵便になすこと。

1、調査書は出願者の出身學校への申出によつて、出身學校長が文部省所定の様式により作製するものであつて、當該學校長から直接本大學に郵送されることになつてゐる。

2、受験票送付用封筒
「受験票一の送付を受けるために、表面に自己の住所氏名を記載し、切手を貼付した封筒を「志願者名票」とともに送ること。名票の受理は「受験票」の届いたことで承知すること。

4、進學適性検査受験票
志願者は受験の際必ず昭和二十六年年度施行の「進學適性検査受験票」を携帯すること。

五、出願期日

昭和二十六年二月十日から三月十日まで。

六、學力検査科目

國語
理科
圖畫
音樂
體育
(生物)
(聲樂)
(實技)

七、検査期日及時割

三月十六日 午前九時—午後三時

國語・理科 圖畫

三月十七日 午前九時—午後三時

音樂 體育 身體検査

八、検査場所

東京都文京區大塚町三五 お茶の水女子大學

(都電 大塚窪町下車)

九、合格者發表

合格者氏名を三月二十一日、本大學に掲示する。

十、特典

1、幼稚園教諭の假免許状を受けることができる。

2、入學檢定料、授業料免除

注意 本入學試験に關する郵便宛名は次の通りとすること

(小石川局區内)

東京都文京區大塚町三五

お茶の水大學庶務課

會から

今月は、いつもの『會から』の形をかえ、讀者の誌友諸氏と、編者との御懇談に、この欄を用いさせていただきます。よろしくお願いいたします。

第一に本誌の普及についてです。發行部數を公表することは、一般に行われぬことですが、本誌月々の發行部數は、全國幼稚園數約一・七八七、保育所數約二・三五三には超えています。従つて、その數では、全國の各幼稚園各保育所に行きわたつてゐる形です。しかし、幼稚園の先生方の總數約八・四一、保育所の先生數約七・一六八には遠く達していません。この數では、各先生のお手許には届いていない譯です。但し、十五部の發行はこの種の雜誌としては、普通望み難いことですから、冊々御囑下さつて結構なのですが、先生方との個々の親しみの感じからは、もう少し多くの個人愛讀者を得たらと思つては大望過ぎましようか。とにかく、讀者擴張は常に願わしいことです。早い話と申しては勝手な申し方ですが、一讀者が一新讀者を勧誘して下さることで、直に二倍になります。ところで、御勧誘を願うばかりでなく、本誌自身がよく迎えられるに足るものになることか先づ大切なことは、よく心得てはいます。

それにこそお力を借りなくてはなりません、それについては、

- 一、どういふ内容を御希望。
 - 二、保育上の御研究、御實驗、各地保育界の報告、其の他の御寄稿、御通信。
 - 三、御質疑の問題がありましたら、御遠慮ない御相談。
- を、是非々々どし／＼お寄せ頂いて、眞に保育界のもの、皆さんのものに、なさつて下さい。
- 毎號の印刷部數の増していく喜びを感謝しつゝ、益々御懇親を希います。

『幼兒の教育』編集

編集主任 倉橋惣三
 協力委員 牛島義友
 及川ふみ
 齋藤文雄
 多田鐵雄
 波多野完治
 山下俊郎
 (五十音順)

編集委員 西山浪太郎

日本幼稚園協會

幼兒の教育

第卅卷 第三號

定價 金參〇圓

昭和二十六年三月十五日印刷
 昭和二十六年三月二十日發行

東京都中野區千光前町一〇番地

編集兼 發行者 倉橋惣三

東京都文京區柳町二二番地

印刷者 杉山龜吉

東京都文京區柳町二二番地

印刷所 第一印刷株式會社

東京都文京區大塚町三十五

お茶の水女子大學附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

東京都千代田區神田神保町二ノ四

發賣所 株式會社 フレーベル館

電話九段(33)三六七三三〇

振替 東京一九六四〇番

○本誌御購讀について注文申込その他は凡て發賣所フレーベル館宛に願います

保 育 用 品

自由画帳 定價二〇圓

送料6圓、40冊まで55圓

おさいく帳 定價二〇圓

送料6圓、50冊まで55圓

大判ぬりえ 定價三〇圓

送料6圓、40冊まで55圓

ぬりえ(初級) 定價三〇圓

送料6圓、50冊まで55圓

ぬりえ(上級) 定價三〇圓

日本幼稚園協會編

えとぬりえ 定價35圓

送料6圓、40冊まで55圓

御道具箱 定價50圓

送料 5箱まで35圓

特製折紙 寸色枚把 4各100 定價二五圓

送料十把まで35圓

特製折紙 寸色枚把 5各100 定價三五圓

送料十把まで35圓

フレイベル館保育用品株式会社

幼児を

楽しませながら

テスト出来る

日本教材研究所々長

文學博士 田中寛一著

適用 四才—六才 範圍

幼児用

田中B式 知能検査

〔三月發賣〕 定價一五圓 千六圓

幼児に親しみある繪で 出来ている。

幼児が興味を持ち、楽しんでみながら、テストが出来る様、工夫してあります。

★御注文は發賣代理店 又は本社に

★個人の一冊賣はしま

せんから、幼稚園、團體で御注文下さい

★見本進呈しますから 御一報下さい

東京墨東區坂本二ノ二六(振替東京 三八二八二)

發行所 日本文化科學社

發賣代理店 丸善株式會社 本店及 全國支店

幼児の性格を知り

正しく指導するために

観 察 繪 本

キンダーブック

KINDER-BOOK

キンダーブックのフレーベル、フレーベルのキンダーブック——この繪本は餘りにも有名です。發刊以來既に通巻 250 號を發行し、全國の各幼稚園保育所をはじめ、健全な家庭から、學齡前の幼兒に無條件に與へられる代表的な繪本として讀々の好評を戴いてをります。先頃連合軍總司令部CIEより發表ありましたものゝ中にも、アメリカにおいても類誌のない獨自のものであるとの評言葉がありました。企畫、編集、用紙、着色、製本凡ゆる面に不斷の精進をつけ、號は號を追つて益々良いものを世に送りたいと努力してをります。次代の日本を背負う愛兒のためのこよなき心の糧であります。

A 4 判・16 頁・月 1 回發行・定價 40 圓・送料 6 圓

好 評

實用保育遊戯 第一集

實 來 琢 磨 著

B 5 判 七〇頁 上製美本 一八〇圓 下 一二二圓
 △保育遊戯の研究と實地指導のために二十數年の経験をも
 ち更にその生涯をそのために捧げる著者が、保育遊戯
 の指導課程に基いて研究された教材集、近ごろ示される
 「音楽とリズム」についての指導方針を理解する上にも
 こよなき參考書である。

人形芝居脚本集

倉 橋 惣 三 序
 菊 池 フ ジ 三 序
 徳 久 幸 共 著

B 6 判 一八〇頁 上製 一五〇圓 下 一二二圓
 △人形芝居の保育價值については今更のべるまでもない。
 本書は先に出版された噴々の好評を博した舊版同書の増
 補改訂版である。正に人形芝居シナリオの定本というべ
 きもの。

幼稚園お話集 上・下

倉 橋 惣 三 編
 日本幼稚園協會編

A 5 判 二〇〇頁 美本上製各二〇〇圓 下 一二二圓
 △これまた「お話集」の定本といはれた編判の増補改訂版
 である。ほとんど全部にわたつて改訂増補をこころみ光
 茫いやます好著となつた。

やさしいリズム遊び と行進曲

五 山 英 光 作曲
 賀 來 琢 磨 振 付

B 5 判 上質紙使用 美本 九〇圓 下 六圓

△新しい保育内容充實の爲、幼兒才能音楽教育の立場か
 ら、一日の保育の中より描寫して、リズム遊びの音楽
 と行進曲にまとめた、幼稚園・保育所向けの良い參考
 書である。

發 行 所

東京都千代田區神田
 神保町二丁目四番地

株 式 會 社

フ レ ー ベ ル 館

振替口座東京
 一九六四〇番